



商工中金景況調査（2022年11月調査・定例分）の公表について

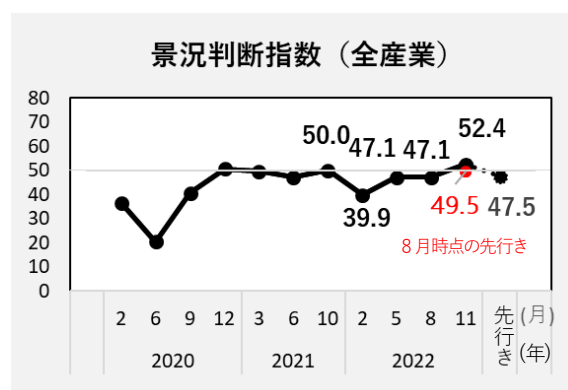
商工中金は概ね四半期に一度、中小企業の景況感をはじめとする実態把握のため景況調査を実施しており、今般、2022年11月調査のうち毎回共通の質問項目（定例分）の結果について公表しました。

<2022年11月の景況感>

足元景況感は約2年ぶりの「好転」超。
先行きは再び「悪化」超となる見通し

全国旅行支援などもあり、人流回復が追い風となる業種で「好転」超幅が拡大したことから、11月の景況判断指数は52.4と2020年12月（50.6）以来約2年ぶりの「好転」超となりました。

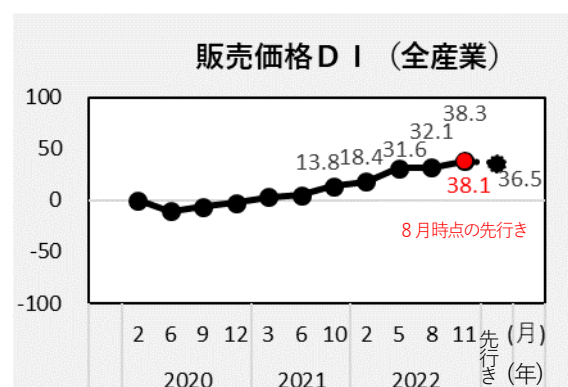
ただし、コロナ第8波や販売・仕入価格などの不透明感から、先行きの景況判断指数は47.5と再び「悪化」超となる見通しです。



<2022年11月の業況判断>

【販売価格】諸コスト転嫁に伴い、
ほぼ全業種で「上昇」超幅が拡大

販売価格DIは、既往の原材料価格やエネルギー価格の高騰分を転嫁する形で上昇が進み、11月は38.3となりました。



- ・本編資料は[こちら](#)をご覧ください。
- ・トピックス調査分(中小企業における賃上げの動向について<仮>)は2023年1月中旬～下旬頃公表予定です。